古江台中学校ブロック（　古江台中学校　古江台小学校　津雲台小学校　古江台幼稚園　北千里保育園　）

幼保小中連携通信　JOINT　NO．３５

２０１７．９．１２

古江台中学校ブロック　夏季合同研修会

7月27日(木)13:45～17:00　古江台小学校
古江台中学校ブロック夏季合同研修会　開催
3校2園の教職員　65名　参加

【講演会】　**「読み物教材による道徳の授業、評価について」**
講師　豊能町立東ときわ台小学校　教諭　龍神　美和　様

道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行う」（学習指導要領）ものですが、その“要”となってきた「道徳の時間」が、2015 年３月の学習指導要領一部改正で、「特別の教科　道徳」（道徳科）となりました。小学校は 2018 年度から、中学校は 2019 年度から、検定教科書を使った授業が始まります。

今回は道徳科の授業を、どのように作っていけばよいのか、読み物教材を使っての授業の進め方、評価の仕方についてお話を伺いました。

まず初めに、道徳の時間には「なぜそのようにするのが善いのかを、子ども自身が納得することが大切。」であることを教えていただきました。例えば、なぜ「正直」な行いがいいのか？という質問によって、「信頼されるから。」「後悔しないから。」「どきどきしないから。」など、正直な行いによって得られる価値を学級の子どもたちで共有し、さらに納得することによって実践しようとする意欲に繋がることが分かりました。

次に、読み物教材を使う意味について触れられました。読み物教材を使う利点としては「子どもたちが具体的な場面や状況の中で学習できること。」「学級全体が共通の話題で学習できる。」などがあるということでした。

そして授業の組み立て方の話となりましたが、なによりも教材をしっかりと読み込み、中心発問をどこに置くのかを考えることの重要性を改めて感じました。物語教材を研究するにあたって、４つの場面（ A:状況把握、B:主人公が葛藤する場面、C:葛藤を克服していく場面、D:しめくくり・高まった価値を実感する場面 ）に分け、場面 C・D を見据えて中心発問を考えるのが良いというお話の後、『さかあがり』、『窓ガラスとさかな』、『ロレンゾの友だち』といった具体的な作品をあげて、中心発問のねらいについてのお話をしていただきました。わかりきっているねらいでは、子どもの心に響かず、子どもが「考えてみたい、言ってみたい、聞いてみたい。」と思えるねらいを指導者が具体的に持つことが必要であると教えていただきました。

今回の研修会で学んだことをこれからの道徳の授業の中で活かしていきたいと思います。

【分科会】

教科・領域別および事務連携の全１２分科会に分かれ、幼保小中をつなぐカリキュラム、指導計画、校種間の関連性、各校独自の取組みなどについて、意見交流を行いました。

＜事務連携は、「職務における連携」について情報交換＞

☆★☆

古中ブロック公開授業　６月１２日（月）６限目

古江台小学校２年１組　外国語活動　「数」　授業者　青野 有美　教諭
講師　関西大学教授　池田　真生子　様

古中ブロックの先生方 66 名が参加してくださいました。古江台小学校では、外国語活動を中心として取り組み始めて３年目になります。

授業では、歌を歌いながら単語を復習した後、リズムに合わせて発音練習をしました。スピードを上げたり、発音する単語を三つにしたりして少しずつ難易度を上げて確認していきました。最後に、ナンバー集めゲームをしました。「たくさんの人と話そう」というめあてを達成するためにいろいろな色のシールが用意されていました。児童はシールをいっぱい集めようとたくさんの人に声をかけにいったり、自分のところに来てほしいときには呼び込みをしたりすることが出来ていました。

その後の全体交流では、授業についてのこと、中学校での授業のようす、表現力に課題のある児童をどうやって選んでいるのかなどの話し合いが出来ました。

講師の池田先生からは、「言語力育成と外国語指導のかかわり方」についてお話していただきました。言語力とは、読む、書く、聞く、話すための手段だけではなく、思考や感性などの能力とかかわり、対話するための手段であること。そして、言語力を育成していくためには言語の表現法を身につけることが必要であるということを教えていただきました。今回の研修会で教えていただいたことを英語の授業だけでなく他教科でも意識して、日々の授業で活かしていきたいと思います。